

継1 ～多文化共生社会の構築を推進する事業～

1. 多文化共生社会づくり推進事業

(1) 多文化共生のまちづくりサポート事業

① 多文化共生オフィス運営事業

・多言語相談窓口運営

多文化共生オフィスにおいて、次のとおり多言語での相談及び法律、出入国に関する相談業務を実施しました。また、必要に応じて外国籍児童とその保護者のための教育相談を受け付け、情報提供、アドバイスを行いました。

相談件数 6,140件

多文化共生オフィスオープン時間 9:00～20:00

●日本語、英語、中国語	随時	9:00～20:00
●中国に関する相談 *	毎週火曜日	13:00～17:00
●ドイツに関する相談 *	毎週水曜日	13:00～17:00
●韓国に関する相談 *	毎週木曜日	13:00～17:00
●アメリカに関する相談 *	毎週金曜日	13:00～17:00
●タガログ語相談	第2水曜日	13:00～17:00
●スペイン語相談	第1金曜日	13:00～17:00
●韓国人のための生活相談	第4水・木曜日	13:00～17:00
●中国人のための生活相談	毎週水・金・日曜日	13:00～18:00
●出入国管理法及び難民認定法に関する相談 **	第1水曜日	13:00～15:00
●外国人のための無料法律相談 **	第3土曜日	14:00～16:00

* 熊本市国際交流員対応相談

** 前日の午前中までに予約が必要

・市政だよりの多言語化

情報（語学）ボランティア登録者の協力を得て、毎月、市政だよりの生活・催し・健康の中から在住外国人にとって必要な情報を英語、中国語、韓国語に翻訳しHP上へ掲載しました。

・KIF（※）ニュースの配信

KIFの主催するセミナー・交流会・講座の他、民間国際交流・協力団体が実施する催し物情報を、毎週1回、インターネットで配信しました。

KIFニュース登録者数518人

・あんしん・あんぜん・生活情報 eメールマガジン

携帯メールを利用し、登録いただいた在住外国人向けに生活情報等を英語、中国語、やさしい日本語で提供しました。災害時には、災害メールとして活用しました。

※（3）外国人のための防災事業 ④災害メール配信を参照

配信 毎月10日

登録者 399人 （内訳：英語 216人、中国語 69人、日本語 114人）

② 多文化共生月間事業

1) 多文化サロン

熊本の在住外国人コミュニティと協力し、文化、生活習慣、宗教の紹介、また、在住外国人の熊本での生活を知ると同時に、多文化共生社会を推進する交流の機会を提供しました。

●中国人コミュニティ“熊本で旧正月を過ごす!”

日 時: 2018年2月10日(土) 13:00~15:00

場 所: 国際交流会館 2F交流ラウンジ

参加人数: 68人

中国の正月(旧正月)の文化を中国の地域毎に映像を使い紹介してもらい、中国語を学習している子どもたちの歌や踊りの発表をしました。台湾も含め、中国の地域毎の多様性、文化を尊重し、相互理解をする機会となりました。



●留学生コミュニティ“熊本で学ぶ”

日 時: 2018年2月17日(土) 13:00~15:00

場 所: 国際交流会館 2F交流ラウンジ

参加人数: 40人

「熊本大学留学生会(KUMISA)」と「熊本地震経験プロジェクト(KEEP)」による留学生の活動報告を行いました。留学生が、地域との関わりや相互理解を大切にしている活動を知ることができました。



●イスラムコミュニティ“熊本イスラミックセンター訪問”

日 時: 2018年2月24日(土) 16:30~18:30

場 所: 熊本イスラミックセンター(マスジド)

参加人数: 20人

熊本イスラミックセンター(マスジド)を訪問し、イスラム教徒(ムスリム)の生活(お祈りのこと、宗教と生活、モスクの管理など)について直接話を聞き、ハラール料理で夕食交流を行いました。

2) 多文化共生シンポジウム

在住外国人が年々増加、また、彼らの生活が多様化する中で、どのような多文化共生社会を創っていくのか、視野を広げ、世界の事例から地域社会のことを考えるシンポジウムを実施しました。

日 時: 2018年2月25日(日) 13:00~16:00

場 所: 国際交流会館 3F国際会議室

参加人数: 32人

内 容: 1部「グローバルワークキャンプ

タイ派遣プログラム報告」

田邊裕子氏、桑本始奈氏

(熊本学園大学外国語学部 学生)

2部「イギリス社会における多文化共生」

熊本大学大学院先導機構 博士課程教育プログラム

田辺寿一郎氏(「HIGO プログラム」推進室 特任助教)

3部「熊本でどんな共生社会を目指すのか!」

パネラー 1部、2部の事例発表者

コーディネーター 羽賀友信氏(新潟県長岡市国際交流センター長)



3) 多文化共生写真展

熊本地震の経験をとおして、日頃からの多様なつながりが減災となり、地域を豊かにすることが新たに認識されました。多文化共生社会のさらなる推進を目的に、在住外国人コミュニティの活動に日本人住民を巻き込んでいく機会を提供し、同時に色々な人が暮らす社会の豊かさを紹介し、その基礎となる人権について考える写真パネル展を開催しました。

テーマ：「色々な人が暮らす豊かな社会と人権を考える
写真展」

期 間：2018年2月14日（水）～ 28日（水）

場 所：熊本市国際交流会館 1Fエントランスホール

入場料：無料

協 力：熊本市、熊本市人権啓発市民協議会

備 考：・14日～20日は、熊本大学の留学生による「外国人のレンズが捉えたクマモト写真展」を開催。

・21日～28日は、熊本の外国人コミュニティに取材協力をし、彼らの組織、活動について紹介するパネルを展示しました。

・14日～28日をとおして、外国人の書き初め、俳句作品を展示しました。

・熊本市・熊本市人権啓発市民協議会の協力で、リーフレット「Diversity Kumamoto 色々な人たちが暮らす豊かな熊本」を発行しました。



③ 地域サポート事業

【多文化共生ソーシャルワーカー活動】

各区役所保健子ども課の依頼に応じ、在住外国人家庭への「赤ちゃん訪問事業」へ通訳として同行し、言語・文化通訳支援を行いました。加えて、異国での子育てによるストレスや不安に対してのアドバイスや子供の成長に合わせた教育等のサポートを行うとともに、生活全般の情報提供を行いました。

また、外国人の個々の課題に応じ、その問題解決までを、関係団体との協力のもと実施しました。教育機関等からの要請に基づき、学校に通う外国ルーツの子どもたちの保護者に対し、教育の仕組み、学校での基本的な生活や年間行事等について説明しました。

相談件数：43件

国籍 \ 分野	赤ちゃん訪問	検診	発育療育	メンタルケア	転編入学	教育相談	行政手続等	医療	その他	計
アジア	7	3	8	1	4	14	—	1	2	40
アフリカ	—	—	—	—	—	—	3	—	—	3
計	7	3	8	1	4	14	3	1	2	43

④ 医療通訳ボランティア派遣制度

メディカルサポート熊本と協力し、医療通訳ボランティア養成講座を修了したボランティアを提携する医療機関へ派遣しました。

2018年3月現在の提携医療機関は、国立病院機構熊本医療センター、熊本大学付属病院、熊本市市民病院、熊本赤十字病院、福田病院の計5医療機関

派遣件数：82件（うち提携外医療機関からの依頼7件）

※医療通訳ボランティア養成講座

2019年、2020年に開催予定の国際スポーツ大会を見据え、新たなボランティアの育成を行いました。

●医療通訳ボランティアオリエンテーション

日 時：2017年4月23日（日）9:30～15:30

場 所：熊本市国際交流会館 3F国際会議室

参加人数：37人

●養成講座 全7回

日 時：5月27日（土）13:30～16:30「医療通訳総論・基礎知識」

講 師：李 節子氏（長崎県立大学教授）

日 時：6月10日（土）9:30～16:30「救急医療 内科編 講義・ロールプレイ」

講 師：益田 充氏（日本赤十字社和歌山医療センター医師）

日 時：6月24日（土）9:30～16:30「救急医療 外科編 講義・ロールプレイ」

講 師：益田 充氏（日本赤十字社和歌山医療センター医師）

日 時：7月2日（日）9:30～16:30

「医療制度について/通訳技術及び理解度チェック」

講 師：川野智史氏（国立病院機構熊本医療センター医事専門職）

日 時：7月9日（日）9:30～12:00「心のケアカウンセリング」

講 師：加藤理人氏（イエズスの聖人病院臨床カウンセラー）

日 時：7月23日（日）9:30～12:00「産科・婦人科編」

講 師：渥美陽子氏（福田病院医師）

日 時：7月30日（日）9:30～12:00「医療通訳講座まとめ 修了証授与」

講 師：最相博子氏（メディカルサポートくまもと代表）

参加人数：28人（うち、修了証授与者22人）

●医療通訳ボランティア登録者向けスキルアップ研修

日 時：2018年3月11日（日）10:00～16:00

場 所：国際交流会館 5F大広間

講 師：益田 充氏

（日本赤十字社和歌山医療センター医師）

加藤理人氏

（イエズスの聖人病院臨床カウンセラー）

最相博子氏

（メディカルサポートくまもと代表）

参加人数：22人



（2）日本語支援事業

① 暮らしのほんごくらぶ

在住外国人が熊本で生活する上で必要な日本語を習得して、地域社会の生活に早く順応できるよう、日本語会話や日本の生活習慣を学ぶ「暮らしのほんごくらぶ」を行いました。日本語学習をサポートするボランティア（生活日本語ボランティア）と、一対一を基本として学習を行うと共に、日本文化体験や交流会などを実施しました。

活動日：毎週 火曜日 10:00～12:00

水曜日 10:00～12:00、14:00～16:00、18:30～20:00

日曜日 10:00～12:00、14:00～16:00

参加学習者数：延べ4,283人

ボランティア数：延べ3,803人

場 所：国際交流会館 2F ミーティングルーム・交流ラウンジ

交流会（対象：学習者とボランティア）

●月見団子づくり

日 時：2017年9月24日（日）13:00～15:30

場 所：国際交流会館 4F第3会議室

参加人数：62人

●年末交流会

日 時：2017年12月17日（日）10:00～16:00

場 所：国際交流会館 4F第3会議室

参加人数：145人

●茶道体験（初茶会）

日 時：2018年1月10日（水）10:00～16:00

場 所：国際交流会館 5F茶道室

参加人数：59人

●書道体験（書き初め）

日 時：2018年1月21日（日）13:00～14:30

場 所：国際交流会館 2F交流ラウンジ

講 師：KIFサポートセンターボランティア

参加人数：18人

●お花見交流会

日 時：2018年3月28日（水）12:10～15:00

場 所：熊本城

参加人数：約70人



② 初級日本語集中講座

日本語を学習したことがない在住外国人を対象に、集中的に日本語の基礎を学習する講座を開講しました。

期 間：1) 2017年7月14、16日（入門講座）25日～29日（本講座）

2) 2017年9月10、13日（入門講座）22、23、24、26、27日（本講座）

3) 2017年11月10、14日（入門講座）19、20、22、23、24日（本講座）

4) 2018年3月2、6日（入門講座）13～17日（本講座）

講 師：日本語教授法有資格者（外国籍のこども支援ネット、大学講師など）

参加人数：計22人（7人、7人、3人、5人）

③ 生活日本語支援ボランティア研修会

1) 熊本県立大学主催講座『「やさしい日本語」で伝えるためのポイント』への参加

日 時：2017年9月18日（月）13:00～17:00

場 所：熊本県立大学

講 師：岩田一成氏（聖心女子大学）

参加人数：生活日本語ボランティア27人

2) 「ボランティアの役割や組織内での活動の仕方について」

日 時：2017年12月10日（日）13:30～15:30

場 所：国際交流会館 2F交流ラウンジ

講 師：羽賀友信氏（新潟県長岡市国際交流センター長）

参加人数：生活日本語ボランティア13人

④ 地域日本語教室 武蔵丘・健軍教室

地域に住む在住外国人を対象に、生活に必要な日本語の学習機会の提供と、地域に住む住民同士の交流を促進することを目的とした地域日本語教室を開設しました。

【武蔵ヶ丘教室】

開催日：毎週火曜日 10:00～11:30

場 所：菊陽町西部町民センター

支援者：生活日本語ボランティア

学習者：延べ208人（協力ボランティア 延べ160人）

参加費：300円（会場代。学習者の代表が管理。）

【健軍教室】

開催日：第2週以外の毎週火曜日 10:00～11:30

場 所：よって館ね（健軍商店街ピアクレス内）

支援者：生活日本語ボランティア

学習者：延べ85人（協力ボランティア数 延べ76人）

⑤ 文化庁委託事業 スタートアッププログラム事業

熊本地震の際、地域日本語教室のつながりがセーフティーネットの役割を果たしたことを教訓に、日本語教室がない空白地域に新しい教室を立ち上げ、“顔の見える”関係作りを推進しました。平成29年度は、熊本地震で被災し一時日本語教室がなくなってしまった東区で、新しく多文化共生の拠点となる教室「東区くらしのにほんごくらぶ」を開設しました。

開催日：毎月第1・第3日曜日 10:00～12:00（2017年6月18日より開始）

会 場：東部公民館

支援者：日本語交流サポーター（東区専任生活日本語ボランティア）

学習者：延べ119人（協力ボランティア数 延べ178人）



⑥ 熊本県立大学との連携事業

日本語教育研究室との地域連携型卒業研究として、日本人側が「やさしい日本語」を学ぶ教材を作成しました。

（3）外国人のための防災事業

在住外国人を対象にした防災・避難訓練を熊本市広域防災センターで開催しました。

また次年度に実施する災害時外国人支援多言語サポーター募集説明会を実施しました。

① 外国人のための防災訓練

在住外国人を対象に災害時の基礎知識と防災シュミレーション機器を利用した体験を通して学んでもらう防災訓練を熊本市広域防災センターで開催しました。

日 時：2017年10月1日（日）10:00～12:00

場 所：熊本市広域防災センター

（熊本市中央消防署2F）



参加人数：24人（11カ国）

〈出身国〉グアテマラ・メキシコ・フランス・アルゼンチン・パプア
ニューギニア・マレーシア・中国・ミャンマー・モンゴル・英国・
インドネシア

② 災害時外国人支援多言語サポーター募集説明会

語学ボランティアや市民を対象に災害時多言語情報翻訳・通訳に協力して頂く、災害
時外国人支援多言語サポーター募集説明会を実施しました。

日 時：2018年1月27日（土）10:00～12:00

場 所：国際交流会館 3F 研修室3

参加人数：9人

③ 外国人のための防災ラジオ放送や防災カードの配布

熊本シティエフエムにおいて、多言語（英語、中国語、韓国語、タガログ語）による
防災情報を定期的に放送しました。熊本大学での新入学留学生オリエンテーション、
外国人コミュニティの会議や日本語教室等で外国人参加者向けに防災カードの配布を
行いました。

④ 災害メール配信

災害発生時の警戒レベルに合わせて、災害メールを日本語、英語、中国語で配信し
ました。

件数：6件（台風情報5件 大雨洪水警報1件）

⑤ 在住外国人の状況把握（年度内3回更新）

在住外国人の住民データを、学校区（避難所地区）ごとに整理し、災害時対応に備え
ました。

（４） 外国籍の子どもの教育支援事業

① 進路ガイダンス

帰国者の呼び寄せや、両親が国際結婚などで来日
した外国にルーツを持つ子どもたち及びその保護者
を対象に、日本の教育システムや高校受験の際の特
別措置・配慮などについて詳しく説明をする進路ガ
イダンスを実施しました。

日 時：2017年7月9日（日）13:30～16:30

場 所：国際交流会館 4F 第1会議室、第3会議室

参加人数：100人（小学生2人、中学生16人、保護者16人、中学校担任教師3人、
通訳8人、小中教師13人、高校教師2人、高校生8人、県教育委員会1人、
マスコミ1人、一般5人、ボランティア大学生9人、スタッフ16人）

参加費：無料



② 外国籍児童のための教育サポート

義務教育期間における日本語指導が必要な外国籍児童に対し、高校生及び支援者の協
力で、日本語教科学習や生活相談等も行う「おるがったステーション」を国際交流会館
において開催しました。

おるがったステーション

日 時：毎週日曜日 10:00～12:00（中学生）、14:00～16:00（小学生）

場 所：国際交流会館 5F 和室他

参加人数：延べ1189人（日本、中国、シンガポール、アメリカ、タイ、フィリピン、韓国等）

③ 熊本・外国ルーツの子ども支援研修会・特別講座の開催

支援者により結成された熊本・外国ルーツの子ども支援連絡協議会へ参加し、各地域で外国ルーツの子どもたちが学校でどのようなことに悩み、戸惑い、どこで授業につまずくのか、生活言語と教育言語の違いなどわかりやすく理解する研修会を開催するとともに、日本語指導に当たっている教職員、日本語教師等を対象に日本語の教え方講座を実施しました。

●研修会

日 時：2017年6月17日（土）13:30～16:30

場 所：玉名市文化センター 視聴覚室

参加人数：30人

●特別講座3回シリーズ

第1回

日 時：2017年9月30日（土）13:30～16:30

場 所：尚絅大学

内 容：初期指導について（小学生・中学生）

参加人数：46人

第2回

日 時：2017年11月25日（土）13:30～16:30

場 所：尚絅大学

内 容：ダブルリミテッドの指導について

参加人数：29人

第3回

日 時：2017年12月9日（土）13:30～16:30

場 所：尚絅大学

内 容：漢字指導、指導の実例共有、グループ討議

参加人数：32人

④ 連携事業：黒髪小学校・桜山中学校日本語センター校等との連携

熊本市内にある日本語指導のセンター校と連携し、外国にルーツを持つ児童生徒とその保護者へ、学校教育、行事等々の説明に対し、協力しました。その他、在日外国人生徒交流会へ活動費の一部を助成しました。

●黒髪小学校日本語センター校閉講式

日 時：2018年2月26日（月）14:30～16:00

場 所：熊本市立黒髪小学校

●在日生徒外国人生徒交流会

期 間：2018年3月24日（土）～ 25日（日）

場 所：YMCA帯山校、熊本県青年会館（ユースピア熊本）